

# 保健だより

## 乳幼児の歯みがき中の事故にご注意！

### 歯磨き中の赤ちゃんの喉突き事故が増えています！！

子どもの歯ブラシによる事故について、消費者庁から情報提供がありましたので、保健だよりを通して保護者の皆さまにお知らせいたします。

医療機関ネットワーク事業参画医療機関からは、6歳以下の子どもが歯磨き中に歯ブラシをくわえたまま転倒して喉をつき、入院するなどの事故報告が寄せられています。

平成22年12月～平成28年12月までに139件の報告があります。

年齢別では1歳児が最も多い64件、次いで2歳児が42件、3歳児が17件でした。

けがをした要因としては、歯ブラシを加えたまま歩くなどして転倒したことが最も多くなっています。

※「医療機関ネットワーク事業」とは、参画する医療機関（平成27年11月時点で30機関）から事故情報を収集し、再発防止に活かすことを目的とした、消費者庁と独立行政法人国民生活センターとの共同事業のことです。

図1. 年齢別事故件数

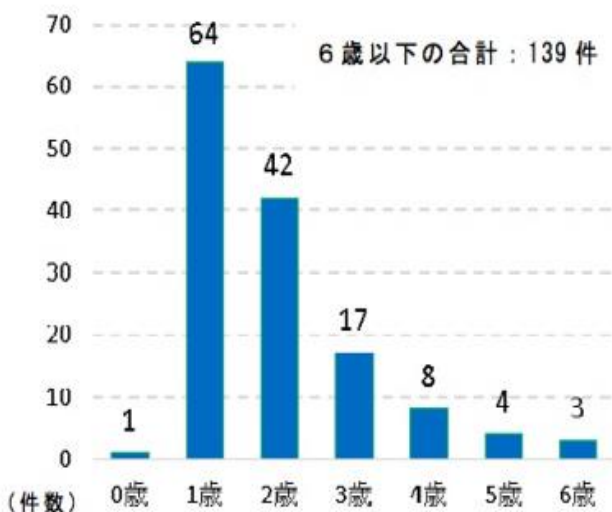


図2. 受傷要因別比率

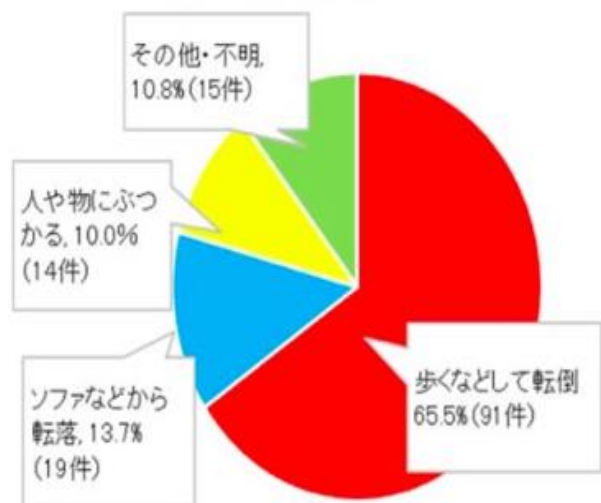


図1、図2の出典：医療機関ネットワークに寄せられた事故情報

## こんな事故が報告されています！

- 歯ブラシをくわえたまま椅子から転落し、歯ブラシが折れて先端部分が刺さった。(1歳女児中等症)
  - 歯ブラシをくわえたまま走りまわってソファーにぶつかり、口の中を受傷。(1歳男児中等症)
  - 歯ブラシをくわえたまま兄とじゃれていて兄に押されて転倒し、口の中を受傷。(1歳男児中等症)
- どの事故もごくごく普通の生活であり得る事故だということがお分かりいただけだと思います。歯磨き中の子どもから目を離さないようにお願いします。



## 消費者庁では次の注意点を挙げています！

- 保護者がそばで見守り、床に座らせて歯磨きをさせましょう。  
子どもが歯ブラシを口に入れたり歯ブラシを手を持ったりしたまま歩きまわると、転倒してけがをする危険があるので気をつけましょう。
- 子ども用歯ブラシは、喉突き防止カバーなどの安全対策を施したものを選ぶようにしましょう。
- 保護者が仕上げ磨きをする際は、子ども用歯ブラシはきれいにする効果が不十分なので、仕上げ用歯ブラシを使用しましょう。ただし、仕上げ用歯ブラシは喉突きなどの危険性が高いため、子どもに持たせずに、子どもの手の届かない場所に置きましょう。
- 歯ブラシだけでなく、箸やフォークなど、喉突きの危険性のある日用品も、口に入れたまま歩いたり、走ったりさせないようにしましょう。



喉突き防止対策を施した歯ブラシの例

詳しくは消費者庁のホームページをご覧ください。

[http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer\\_safety/release/pdf/170215kouhyou\\_1.pdf](http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/release/pdf/170215kouhyou_1.pdf)